

技術面の課題への取組状況

I - 3 . 国内の衛生管理対策の現状、 諸外国の取組

一般社団法人日本食鳥協会



国産チキンの安全・健やか宣言

**SAFE TABLE
STATEMENT**

I - 3 .肉用鶏農場の衛生管理に関する事例集

- ✓ 衛生管理に関する事例を普及することにより、業界全体の衛生水準を向上させることを目的として、「肉用鶏農場の衛生管理に関する事例集」を作成。
- ✓ 日本食鳥協会の生産加工会員約70社を対象に衛生管理に関するアンケートを依頼し、アンケートの回答内容に応じてヒアリング調査を実施。実行するうえでのポイント等を含めた事例を収集し、調査結果について有識者等に照会をかけたうえで整理し、事例集として取りまとめ。

目 次

1. はじめに	3
2. 衛生対策	
空舎期間中の衛生対策に関する取組について	7
(1) 鶏舎の除糞作業について	7
(2) 鶏舎の水洗作業について	11
(3) 鶏舎の消毒作業について	18
コラム：マイクロMIXについて	26
コラム：発泡消毒について	27
コラム：ドロマイト石灰乳の塗布の方法について	29
(4) 鶏舎内設備の洗浄・消毒について	32
(5) 鶏舎及び農場の点検・補修について	34
(6) ネズミ、野生動物対策、害虫対策等について	36
(7) 微生物検査について	38
コラム：消毒効果の検証について	40
3. 衛生管理	
飼養期間中の取組	45
(1) 作業者の衛生管理について	45
(2) 飲用水の管理について	50
(3) ネズミ、野生動物対策、害虫対策等について	53
(4) 敷料の管理について	54
(5) 飼料の管理について	56
(6) 中糞出荷について	57



空舎期間中の衛生対策に関する取組について



(1) 鶏舎の除糞作業について

主なポイント

- ・鶏糞、敷料等の有機物については鶏舎の隅までしっかり取り除く
- ・作業後は取り残した有機物がないか目視でよく確認する



事例1

A社では、スクレーパーや、プロアー、搭乗式清掃機など機械も活用して、鶏糞の除去を行っています。また、鶏舎壁付近や鶏舎の角など狭いところは機械による作業が難しいため、手作業により除糞を行う必要があります。作業の最後には、取り残しがないか目視による確認も行い、有機物の除去を徹底しています。除糞段階でできる限り鶏糞汚れや埃を除去することで、水洗しにおける洗い残しの予防にもなります。



写真：除糞作業（スクレーパー）



写真：除糞作業（搭乗式清掃機）

A社では、集めた鶏糞について、農場によって鶏糞ボイラーの燃料として使用するが、農場外の堆肥場へ鶏糞を運搬し堆肥化させています。除糞作業で集めた鶏糞は、トラックに集積してから運搬しますが、集積時に鶏糞が鶏舎外の地面に

空舎期間中の取組と
飼養期間中の取組に
整理

事例と共に各社から
提供いただいた写真
等を掲載。

肉用鶏農場の
衛生管理に
関する
事例集



鳥獣と共生
一帯化推進法人 日本食鳥協会



▲事例集の
アクセスはこちらから

I - 3 . 諸外国における鶏肉の飼養衛生管理に係る取組の調査

- ✓ 海外における鶏肉生産におけるカンピロバクター対策について把握することを目的として、鶏肉の主要生産国である**アメリカ合衆国**及び鶏肉の衛生管理の先行事例が知られている**デンマーク**を対象に、サプライチェーン調査及び政策・企業動向調査を実施。

○デンマーク

- ✓ 「家禽類のサルモネラ症、食肉用家禽等のサルモネラ及びカンピロバクター検査に関する予防措置に関する大統領令（ Danish Order no. 1229 of 26/11/2024 ） 」により鶏群、鶏肉のサンプリング、検査を義務付け。
- ✓ 食鳥処理場で採取したチラー冷却後鶏肉（首皮）について、 50検体中15検体以上で菌量が1,000 cfu/ g以上となった場合、追跡調査を実施。
- ✓ 鶏肉生産における品質保証（KIK）システムにより、孵卵場から食鳥処理場まで、生産チェーン全体を網羅的にデータを収集、分析。

○米国

- ✓ 法令や業界団体主導のカンピロバクター対策はなし。
- ✓ FSISが「生の鶏肉に関するカンピロバクター制御に関するガイドライン」を公表（2021年）。孵化場から食鳥処理場まで、衛生管理やサンプリング方法について留意すべき事項をガイドラインで示す。
- ✓ 一部小売りでは自社農場に対してカンピロバクター等の食中毒菌についてのモニタリングを指示。



◀ サプライチェーン調査及び
政策・企業動向調査の
アクセスはこちらから